第25回総代会は2月10日

コロナ禍の影響でZOOM(パソコンを使ったオンライン会議)による会議

埼玉県市民ネットワークは2月10日(水)13時から総代会を開催します。新型コロナウィルスの状 況を鑑み、1か所に集まらず各自パソコンを使ってオンラインで行うことにしました。

通常の場合と同じく、諸事情で参加できない総代の方は前もって議案をチェックし、賛成・反対を 当日までに各ネットの代表にお知らせください。総代会終了後、講演会があります。

講師:本田宏氏(元済生会病院院長)

演題:「コロナ禍で地域医療は持ちこたえられるか」

時間:総会終了後14:45~15:30



●総代会の傍聴と講演会にはどなたでも参加できますので、地域ネットの代表または運営委員から、 ZOOMのアドレスを手に入れてお入りください。(1週間前には入手できます。)



新型コロナ対策助成金 非営利事業体へも支援を

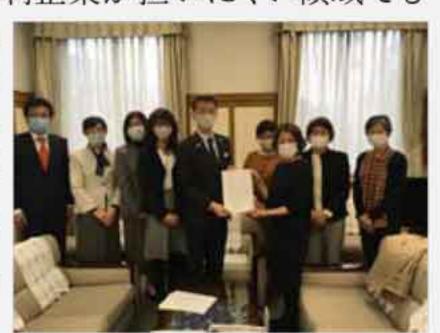
ワーカーズ、生活クラブと県に要望書提出

NPO法人や一般社団法人、法人格のないワー カーズ・コレクティブなどが、コロナ禍での県の中 小企業・個人事業主支援金の助成対象から外さ れた問題について、今後は法人格による区別なく 支援を求める内容の要望書を11月10日、埼玉 ワーカーズ・コレクティブ連合会と生活クラブ生活 協同組合、埼玉県市民ネットワークが共同で提出 しました。

当日は、県側は橋本雅道副知事が出席。ワー カーズ連合会が、ワーカーズ・コレクティブなどの 非営利法人が地域の居場所づくりなどの事業を している現状について、実際にミシンカフェなどの 写真を見せながら説明をすると、興味深そうに聞 いていました。

NPOやワーカーズが展開する非営利事業は不 要不急の事業ではなく、地域の人々に必要不可 欠な存在であり、営利企業が担いにくい領域でも

あります。これらに 対し支援策が抜け 落ちないよう、今後 もしっかりと3者で 連携し、政策提案 していきたいと思 います。



埼玉県市民ネットワーク地域ネット一覧

みんなで力を合わせて市民自治の埼玉をめざします!

生き活き市民ネットワーク鴻巣 越谷市民ネットワーク 市民ネットワーク鶴ヶ島 市民ネットワーク所沢

はにゅう市民ネットワーク 富士見市民ネットワーク ネットワーク三芳

よしかわ市民ネットワーク

まちネット寄居 さやま市民ネットワーク準備会 くまがや市民ネットワーク準備会 飯能市民ネットワーク準備会







一般質問後 知事や傍聴者等と

埼玉県市民ネットワーク通信

いっしょにやる! なんとかする! 自分発でもくらしー!



2021年1月発行 61号

ワーカーズ・コレクティブ拡げる取組み進める

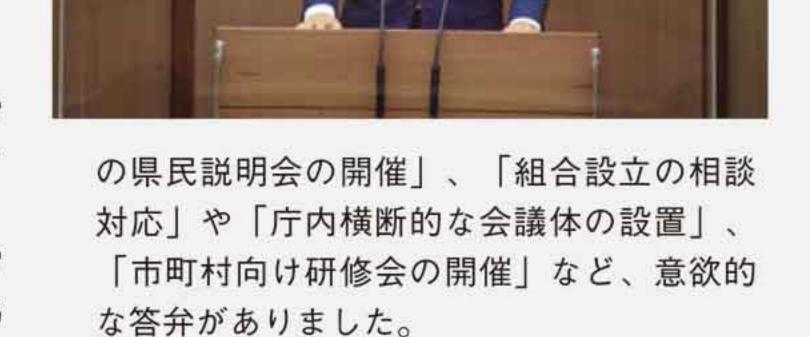
法制化受けて大野知事が意欲的な答弁

埼玉県議会12月定例会では、埼玉県市民 ネットワークの辻浩司県議(埼玉民主 フォーラム)が一般質問に登壇しました。

質問では、コロナ禍によってこれまでの 社会の在り方が大きく変わることを余儀な くされる中で、働き方、暮らし方、子ども たちの居場所のあり方、自然との関り方な ど多方面にわたり価値観の軸を変えていく 必要性を知事や教育長に問いました。

特に、大きな前進が見られたのが、「労 働者協同組合を拡げ、多様な人たちが働け る場づくり」についての質問でした。

ワーカーズ・コレクティブなどの協同労 働を進める人々の悲願であった「労働者協 同組合法」が国会で成立した直後の一般質 問でありましたが、大野知事からは、「私 自身、国会議員に法制化に取り組んできた」 との経緯が述べられ、「労協組合について



働く人が出資・経営し、適正な分配をす ることを原則とする「雇われない働き方」 でもある協同労働は、コロナ失業が増える 中で新たな仕事おこしとして期待されてい ます。法制化によってどれだけこの働き方 が広がるかは地域での展開にかかっている だけに、知事の前向きな発言は希望を抱か せるものでした。

【その他の質問項目】 アフターコロナ社会への知事の姿勢 脱炭素化社会の実現 奥山再生によるクマと人の共生 プレイパークを拡げる 障害のある子どもの共に学ぶ教育 児童養護施設等の退所後の住まいの確保 他



〒343-0041 越谷市千間台西 1-9-13 ヴェルエールメゾン B TEL 048-948-3025





全国交流集会が開催されました



11月15日、全国市民政治ネットワーク(以下全 国ネットと称する)主催の全国交流集会を、今年 はZOOMで開催しました。

全国ネットでは、2年に1回、北海道から福岡ま でのネット会員が集まって、市民政治についての 講演や、各ネットの活動を学び合い、さらに会員 同士が交流するための、全国交流集会を開催し ています。

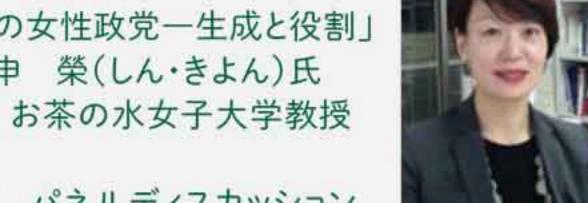
今年度は埼玉で行うことになり、武蔵嵐山の 女性会館を会場と決めて埼玉県ネットが中心と なって準備を進めていましたが、コロナ禍で開 催ができなくなり、急きょZOOMでの学習会に切 り替え、日程も通常2日で行うところを1日での開 催に変更して実施しました。

交流集会のZOOMでの開催は初めてで、担 当の埼玉県ネットでは直前まで準備に追われる など不安を抱えての集会でしたが、参加者も多く (第1部175名、第2部146名)

無事に終了し成果があったと感じます。 内容は2部制で行いました。

第1部 講演会

「世界の女性政党一生成と役割」 講師:申 榮(しん・きよん)氏



第2部 パネルディスカッション 「コロナ禍とローカルパーティーの役割り」 発表:東京·神奈川·千葉·埼玉

第1部は、世界の数ある女性政党について、そ の歴史と役割、成果などについて詳しくお聞きし ました。以下は埼玉県ネットでの参加者からの 感想です。

〇代理人運動は女性政党をめざしているわけでは ないと思うので違和感があった。

という意見があった一方で、

〇全国市民政治ネットワークの活動が世界の女性 政党の中で最も長く続いているパイオニアであるこ とを知って、感銘を受けた。勇気をもらった。

〇ネットワークは、世界で最も長く続けている女性政 党ということで、もっと広げていける可能性を感じた。 〇ネットは、若い人も普通のお母さんなど「しろうと」 が当選できる仕組みをつくり、政治へのハードルを低 くしてきたことに価値があると改めて感じた。

第2部は、コロナ禍の非常に困難な中で、そう いう時だからこそ市民とともに活動を勧めた事 例が発表されました。以下は参加者の感想で す。

〇それぞれ発表の内容がよかった。各地でこんな困 難な時期に頑張っていたのだなと思った。活発な活 動に驚いた。

〇各ネットがいろいろなやり方を自発的に模索して いると感じた。

〇調査活動を、行政や議会への提案活動に活かし ていて成果を出していることがすごいと思った。

〇ヒントをたくさんもらった。

なお、今回は埼玉県ネットが実務担当というこ とで、開会あいさつ、第1部の司会、第2部のコー ディネート、その他雑務を担いました。

この集会を活用するために、地域ネットでは参 加者を募り、地域ネットごとに1か所に集まって 視聴するなども含め、ほぼ全ネットが参加し、み んなで学べたことがよかったと考えます。(埼玉 県ネットの参加者 第1部51名、第2部49名)

また、第2部のパネルディスカッションの発表 では、「はにゅうネット」の斎藤さんが「新型コ ロナによる一斉休校の子どもたちの過ごし方に ついてのアンケート」の活動発表を行いました。 困難な時期に地域の若い母親に寄り添って活 動し、その意見を市議会に届けるなど、働きかけ が地道でよかったという評価がありました。

地域ネット活動報告

越谷市民ネットワーク

いつでも充電!

ソーラーパネルで太陽光発電の学習会

「NPO法人足元から地球温暖化を考える市民ネットえど がわ(通称:足温ネット)」を講師に、中古の太陽光発電パ ネルを使って、災害時などに使用できる移動式自立電源 のワークショップを開催しました。

3.11以降、原発のような大容量の一極集中型の電源で はなく、再生可能エネルギーなど分散型・自立型の多様 な電源を生み出していくことが求められています。

このような講習会を地域でもすすめ、防災拠点づくりやエ ネルギーの自給自足について市民が考える機運を高めて いきたいと思います。





よしかわ市民ネットワーク

コロナに負けず、出来ることを!

会場&ZOOMで『食と農とまちづくり』連続講座を開き ました。第1弾でいすみ市の「学校給食に有機米を使い、 まち全体で農業のブランド力を高めた」お話。第2・3弾で は印鑰智哉氏に「化学肥料や農薬・遺伝子組換え食品 と健康被害との関連、それに気づいて有機農産物に移 行している欧米の動き、ゲノム編集食品が表示もされず に出回る危険性、種苗法改正により自家採取が制約さ れ、種苗が大企業の利益の為に使われる危惧」を学びま した。私たちに出来ることは伝えること・声を届けること。 YouTubeも始めました!初めての予算要望書提出、議案 を読もう会、議会報告&まちかど座談会、放射線測定、公 園のトイレのチェック等出来ることを続けています。

よしかわ市民ネットワークHP



富士見ネット 定例の放射能測定を終えて

今年度、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、集会施設の閉鎖・自粛要請に 活動ができず、やむなく休止した。

例年7月に福島の現地で学び、現状の視察もかないませんでした。

今私たちネットにできること、2回目の放射能測定を11月に実施した。

子どもが利用する放課後児童クラブに隣接する汚染土の埋め立て地の線量につ いては継続的に注視し指導員にも伝えている。

現在、コロナによって子ども、若者や高齢の市民までが経済的、社会的に追い 詰められている状況にある。この苦境に関係機関の対応はどうか。

私たちネットは何ができるのか。個々人がコミュニティ食堂や学習支援教室のス タッフ、フードバンクへの支援など手探りで動いている。

コロナの収束の見えないなか、ネットの活動も変えていかざるを得ないだろう。

